

鹿児島流

# 熱いハートの医師 育てます



桜の中の桜島（鹿児島市） 写真協力：観光かごしま大キャンペーン推進協議会

## 私の臨床研修医時代

鹿児島市立病院  
脳神経内科部長わたなべ おさむ  
渡邊 修

出身校 鶴丸高等学校 ▶ 鹿児島大学

30年以上前に鹿児島大学第三内科（神経・呼吸器・血液）に入局した。同期が、ローテーション研修に市立病院脳外科などへ出向く中、最初の15ヶ月を大学の病棟で過ごした。その後、半年を鹿児島市医師会病院で神経救急研修（ICUに担当患者がないのはわずか数日で、自宅で寝たのが三夜という月もあった）、三ヶ月ほどを鹿児島市立病院で血液内科医としてすごした。当時の大学では、直接の指導医をオーベンと称していた。オーベンは、いわゆる研究生活をスタートした先輩で、極たまに、病棟に上がってくるという感じで、自分から上の先生を捕まえては教えを乞い、聖路加の内科レジデントマニュアルを何度も読んですべて記憶していた。知識や技術は自分からとりにいかないといけな時代であった。現在の研修医制度は、標準化され、効率よく研修できて素晴らしい。研修医の皆さんは、CVカテ留置や腰椎穿刺の手技習得にとっても熱心で、プレゼン能力も立派である。欲をいうと指導医がウザいと思うぐらい、ガツガツくる研修医にも会ってみたい。



出身地 鹿児島市

## 指導医の思い出



出身地 福岡県

しばとう としひこ  
柴藤 俊彦

出身校 青雲高等学校(長崎) ▶ 鹿児島大学

勤務先 ▶ 南風病院

大学時代より「早く一人前になりたい」という気持ちが強くなり、卒業後は多くの専門科領域がある当時の鹿大第2内科に入局しました。研修医2年目の出張先の病院では30名を超える患者さんの主治医を経験した事もありました。先輩Drも多忙であるため、患者に対する治療方針はタイミングをみながら口頭でアドバイスをいただき、あとは自分で調べ、考え、四苦八苦しながら診療を行っていました。大変忙しかった時期であり、沢山の失敗も経験しました。しかし若い頃、忙しく走り回っていた経験が現在に生かされている事をしばしば実感します。

研修医の先生方には自身のQOLも大事ですが、個人的には最初はまず自分に適度な負荷をかけるくらいの気持ちで仕事に望んで欲しいと思います。その方が後々、医師として有意義な生活を送ることができるような気がします。



出身地 鹿児島市

たなか ゆうじ  
田中 裕治

出身校 ラサール高等学校 ▶ 鹿児島大学

勤務先 ▶ 鹿児島医療センター

1988年に鹿児島大学を卒業、当時研修制度はありませんでしたので入局先を悩んだ末、鹿児島大学麻酔科へ行き2年目に同小児科へ入局しました。元々小児科をしたかったのですが、麻酔科の1年は全身管理の重要性を学ばせて頂き、その後の人生を決めるぐらいの経験となりました。

小児科入局後は上級医から、子供を大切にしない国は滅びる、小児科医は究極の今でいう“Dr G”である、患者を診ない医者は論外だが本を読まない医者は地図を見ないで冒険に行くようなものだと教わり、必死に過ごしていた気がします。

多忙のうえ、稀に患児が亡くなる事は辛かったですが、可愛い子供と楽しく遊ぶのも仕事の一つであり、逆に自分が癒されていたことも多く記憶しています。

医師はやりがいのある仕事ですが、責任も重大です。最終的には自分の家族の命を預けることが出来る医師を目指して、一步一步頑張ってください。



出身地 鹿児島市

いちき まさひと  
市来 征仁

出身校 鶴丸高等学校 ▶ 熊本大学

勤務先 ▶ 今村総合病院

私は現行の臨床研修制度が導入される前の1998年に卒業し、納教授の第三内科に何の迷いもなく入局しました。大学病院での1年間は患者さんを念入りに診察・治療することや論文の調べ方などを詳しく教えていただきました。

市中病院では、多くの患者さんを診させていただきました。毎日、2-3人の新患と退院があり一般的な疾患を多く診察することで内科の基礎をしっかりと教えていただきました。夜、救急室に行けば、たくさんの急患がいて先輩医師と一緒に診療させていただいたり、手技をさせていただいたりできました。その後は、夜の街に繰り出して、翌日はトイレで吐きながら早朝採血をしていたものです。

各病院の先輩やスタッフの先生方に熱く厳しく指導を仰ぎ、医師として一番大事な主治医観を植え付けていただきました。我々の時代は時間外労働の制限などもなく、時間を気にすることなく思う存分研修が出来て良い時代でした。



出身地 熊本県

いけだ ゆうと  
池田 悠人

出身校 人吉高等学校 ▶ 宮崎大学

勤務先 ▶ 大隅鹿屋病院

初期研修2年目の終了間近の3月、一般外来に紹介状を持って来院された70代男性。「朝から顔の浮腫が出現し前医初診。血液検査を行ったところ、腎障害があるために精査治療依頼」というものでした。問診を一通り行い、身体診察で頭頸部診察を行ったところ、浮腫がある部位に握雪感をみとめました。目じりの高さから腰部まで皮下気腫が広がっており、原因としては左肋骨骨折で外傷性気胸を発症し、肺から漏れた空気が皮下にもれて皮下気腫が出来ており、それを顔の浮腫ととらえていたようでした。詳しく問診すると来院10日ほど前にトラクターから転落し、左胸部打撲したとの事でした。同日に整形外科受診し、骨折なしとのことで痛み止めで経過観察となっていたとのこと。胸腔ドレーン挿入し、胸部外科にコンサルト、入院治療を行い無事軽快退院されました。問診と診察が大切だと痛感した1例でした。



# 研修医の声



出身地 鹿児島市

よしなが まさふみ  
吉永 匡史

出身校 鶴丸高等学校 ▶ 産業医科大学

研修先 ▶ 鹿児島市医師会病院

初期臨床研修医となりもうすぐ1年になります。入職直後の右も左も分からない自分は、消化器内科の下川原先生から、オーダーの立て方、手技、患者さんへの接し方など事細かに御指導を頂きました。今でも鮮明に覚えています。最近、研修中の診療科はもちろん終了した診療科の先生方からも、「調子はどう？」などと常に声をかけてくださり、非常に仕事がしやすい雰囲気です。初期臨床研修医が院内に1人しかおらず寂しいですが、手技に関しては非常に多くのことを経験させていただいており、本当に有り難い次第です。どの診療科でも「ここまで？」というくらい細かい指導を頂いています。3月からは院外での研修が続きますが、今までに得た経験を基にしっかりと研鑽を積み、再び院内へ戻ってきた際に僅かでも当院の力になりたいと考えております。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。



出身地 熊本県

いい さきこ  
伊井 早紀子

出身校 熊本北高等学校 ▶ Szedged 大学

研修先 ▶ 鹿児島生協病院

研修医になり早いもので10ヶ月が過ぎました。研修医としてスタートした4月はコロナが世界的に大流行し始めた時期で、不安が強かったことを覚えています。しかし、そんな不安を打ち消し、元気をくださる先輩医師がここ鹿児島生協病院にはたくさんおられます。また、日々の診療を通し患者さんからも多くのことを学び元気をもらっています。入院患者さんの幼少期の話や家族の話を聞いていると、目の前にいる80代、90代の方の人生が映画のように色付きで私の頭の中で流れ、とても長い時間を共に過ごしてきたような感覚を覚えます。そしてとても愛おしく感じられるのです。一人一人の患者さんと、患者さんの抱える病気に向き合いながら、先輩や同期、他職種の方々に支えられ充実した日々を送っています。多くの人が笑顔で毎日を過ごせるお手伝いができるよう、これからも日々精進していきたいです。



出身地 薩摩川内市

くわはら もえみ  
桑原 萌絵未

出身校 鹿児島実業高等学校 ▶ 鹿児島大学

研修先 ▶ 鹿児島県立大島病院

研修医になってからは慣れないことばかりで失敗することもありましたが、日々学ぶことが多く充実した日々を送っています。

初めの内は診察やカルテ記載など何をするにも時間がかかり、自分が現場にいることが申し訳ない気持ちになることも多かったですが、頼りになる同期たちや先輩方、丁寧かつ熱心に指導して下さる上級医の先生方や医療スタッフの皆さんのサポートのおかげで少しずつ現場に慣れていくことができました。

県立大島病院では軽症から重症まで幅広い疾患に加えてハブ咬傷や減圧症といった奄美大島ならではの疾患も経験することができます。たくさん症例に出会う度に自分の知識不足を痛感するとともに医師としての仕事にやりがいを感じつつあります。

あっという間に研修期間の半分が過ぎ去ろうとしています。今後とも一日一日を大切にしながら研修に臨みたいと思います。



出身地 大阪府

うすく あずさ  
宇宿 梓

出身校 大阪教育大学附属池田高等学校 ▶ 鹿児島大学

研修先 ▶ 鹿児島大学病院

初期研修の2年間もう終盤、思い返せば不安でいっぱいの心持ちで始まった研修医生活でした。毎月のように仕事内容や人間関係が変わるけどやっていけるのか？ 急な判断を求められて対応できるのか？ そもそも体力ないけど毎日働けるのか？ とか…。すっかりネガティブになってしまっていて、あれもこれもできない、分からない…と無力感に苛まれてつらく感じることもありました。でも、たくさんの人から指導を受け、アドバイスを頂き、悩んだ時には背中を押してもらって前に進むことができました。これからもしっかりと不安は尽きず、大丈夫かな、これで良かったかな？ と自問自答する日々は続きますが、これまでの経験を糧にして、目の前の患者さんの人生を支えていけるよう精進していきます！

# トピックス



## 協議会主催の第2回オンライン合同説明会を開催!!

令和3年2月に、県内のすべての基幹型臨床研修病院が参加し、オンライン合同説明会（Zoom）を開催しました。

県内外から数多くの医学生の方に参加していただき、指導医・研修医・病院関係者から病院・研修プログラム内容の説明や研修医生活について説明しました。

参加した学生からは、研修病院の選び方から採用基準、給与のことまで、さまざまな質問があり、充実した説明会となりました。

今後もオンライン合同説明会や病院見学ツアー等を企画していきますので、ぜひご参加ください!!



## 指導医養成講習会を開催!!

当協議会では、研修医に対する指導を行うために必要な『7年以上の臨床経験を持つ医師』を対象に、令和3年1月9日(土)、10日(日)の2日間、「第11回鹿児島県臨床研修指導医養成講習会」を開催しました。

当日の受講者は29名で、臨床研修制度や鹿児島県の地域医療の現状について、また、指導をするにあたって必要な研修目標の立て方や評価の仕方など、16時間以上にわたってプライマリ・ケアの指導方法についての講習を受けました。

この講習会は、厚生労働省の開催指針に則っており、修了者には厚生労働省医政局長名の修了証を授与しました。

当協議会では、研修医の方々がより良い研修を受けられるように、様々な取り組みを行っていますので、ぜひ安心して鹿児島にお越しください!



KJ法を用いたグループディスカッションの様子



グループ毎に研修計画を作成し発表

## 県外医学生等出前セミナーについて

当協議会では、県内の研修医や指導医が、県外医学生の住むまちに伺い、県内の最新の研修プログラムについて説明したり、病院見学や、臨床研修のこと、鹿児島での生活についてなど、医学生からの質問についてお答えしたりする「県外医学生等出前セミナー」を開催しています。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の状況により、訪問することが難しくなっています。そこで、オンラインシステム「zoom」を使い、面談を実施していきます。県外にいなながら、研修医や指導医の生の声を直接聞くことができる機会として、お一人でも、ご友人と一緒にでも大歓迎ですので、興味のある方はぜひ当協議会事務局までご連絡ください。

e-mail: iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp

TEL: 099-286-2581



## LINE公式アカウントができました!!

医学生の皆さんにイベント等のお知らせをお届けするためのLINE公式アカウントができました。ぜひ、友達登録をお願いします!!



## 鹿児島県初期臨床研修連絡協議会 (事務局: 鹿児島県 暮らし保健福祉部 医師・看護人材課)

〒890-8577 鹿児島市鴨池新町 10-1

e-mail iryokaikaku-ishikakuho@pref.kagoshima.lg.jp

TEL 099-286-2581 FAX 099-286-5928

<https://kagorinsho.jp/>